

	植物名	写真	万葉歌 巻 歌番号 作者
1	あしび アセビ		わが背子に わが恋ふらくは 奥山に 馬酔木の花の 今盛りなり 巻十 一九〇三 作者不伝
2	うまら ノイバラ		道の辺の 茨の末に 這ほ豆の からまる君を 別れか行かむ (巻二十 四三五二) (丈部 鳥)
3	うめ ウメ		春の野に 鳴くや鶯 なつつけむと わが家の園に 梅が花咲く 巻五 八三七 志氏大道
4	え エノキ		わが門の 榎の実もり食む 百千鳥 千鳥は来れど 君ぞ来まさぬ 巻十六 三八七二 作者不詳
5	おもひぐさ ナンバンギセル		道の辺の 尾花が下の 思ひ草 今さらになど 物か念はむ 巻十 二二七〇 作者不詳
6	かへるで イロハモミジ		吾が宿に もみつかへるで 見るごとに 妹をかけつつ 恋ひぬ日は無し 巻八 一六二三 大伴田村大嬢
7	このてがしは コノテガシワ		奈良山の 児の手柏の 両面に かにもかくにも 佞人の徒 巻十六 三八三六 消奈行文
8	さかき サカキ		ひさかたの 天の原ゆ 生れ来る 神の命 奥山の賢木の枝に 白香著け 木綿とりつけて… 巻三 三七九 坂上郎女
9	さくら ヤマザクラ		梅の花 咲きて散りなば 桜花 継ぎて 咲くべく なりにてあらずや 巻五 八二九 張氏福子

	植物名	写真	
10	すもも スモモ		吾が園の 李の花か 庭に散る はだれのいまだ 残りたるかも 卷十九 四一四〇 大伴家持
11	ちさ エゴノキ		山ちさの 白露しげみ うらぶるる 心も深く わが恋止まず 卷十一 二四六九 作者 不伝
12	つるばみ クヌギ		椽の 一重衣のうらもなく あるらむ児ゆゑ 恋ひ渡るかも 卷十二 二九六八 (作者 不伝)
13	なら コナラ		御狩する 雁羽の小野の 慣れはまさらず 恋こそまされ 卷十二 三〇四八 作者 不伝
14	にれ ニレ		おし照るや… あしひきの この片山の もむにれを 五百枝はき垂れ… 卷十六 三八八六 作者 未詳
15	はぎ ヤマハギギ		秋風は 涼しくなりぬ 馬並めて いぎ野に行かな 萩の花見に 卷十 二一〇三 作者 不伝
16	ひかげ ヒカゲノカズラ		あしひきの 山かづらかげ ましばにも 得難きかげを 置きや枯らさむ 卷十四 三五七三 作者 未詳
17	ほほがしは ホオノキ		わが夫子が 捧げて持てる 厚朴 あたかも似るか 青き蓋 卷十九 四二〇四 講師僧恵行 (久米朝臣本繩)